

令和3年3月

保護者、地域の皆様

仙台市立錦ヶ丘小学校

校長 菅原 弘一

令和3年度 協働型学校評価の自己評価と学校関係者評価委員会の評価について

保護者の皆様、地域の皆様の深い御理解と温かい御支援により、令和3年度も充実した教育活動ができましたことに深く感謝申し上げます。過日開かれました「学校評議員会・学校関係者評価委員会」での評価について、下記の通りお知らせします。

尚、学校としての自己評価の過程で頂戴しました御意見等につきましても、参考資料として掲載しました。教職員一同真摯に受け止め、新年度の計画立案や学校運営に活かしてまいります。

記

1 今年度の協働型学校評価の重点目標

<u>学校教育目標</u>	たくましく しなやかに生きる 子ども
<u>協働型重点目標</u>	学校・家庭において、たっぷりと時間を確保し、読書に親しむ ～ 読書を介した「対話」＝温かいコミュニケーションの推進 ～

学校における取組

- ・児童への学校図書館の積極的な活用の働きかけ
- ・学校図書館の図書の実と整備
- ・多読賞の表彰
- ・学校図書館土曜開放事業
- ・朝読書時間等の設定
- ・家庭での読書活動を促す（家読の日の設定）

家庭における取組

- ・家庭での読書時間の確保
- ・親子での読書活動の推進
- ・市立図書館等の利用
- ・読書関連の各種応募に参加

地域における取組

- ・読み聞かせボランティアの活動
- ・仙台市図書館等で企画している活動との連携（ブックトークなど）
- ・学校支援地域本部の学校支援

2 「協働型重点目標」に対する学校の自己評価結果

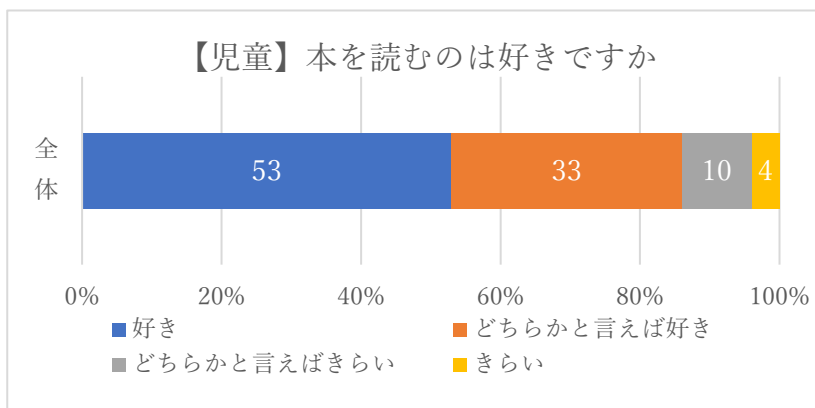
協働型重点目標

学校・家庭において、たつぷりと時間を確保し、読書に親しむ
 ～ 読書を介した「対話」＝温かいコミュニケーションの推進 ～

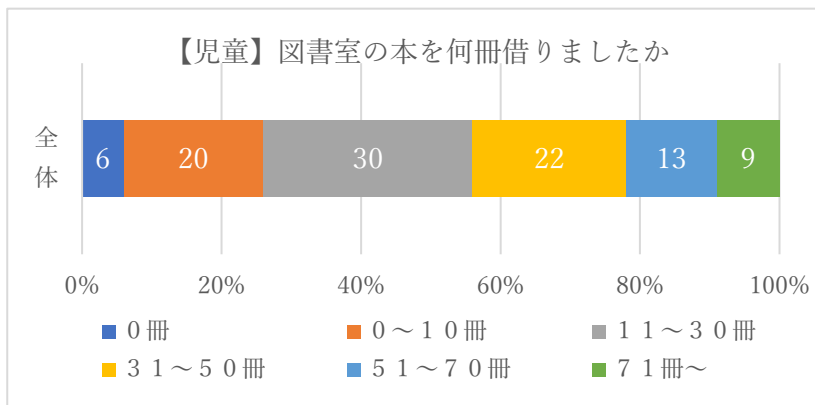
読書量を増やすことのみを目標とするのではなく、読書を介して友達や家族・地域の方、あるいは本に描かれている人物等との対話を促していくことで、「温かいコミュニケーションの力」の育成につなげられるよう取り組んで参りました。

アンケート結果からは、子供たちが読書に親しんでいる様子がわかります。「対話」との関連については、コロナ禍により取組が十分にできなかったこともあり、評価が難しい状況にありました。さらに工夫を検討していきます。

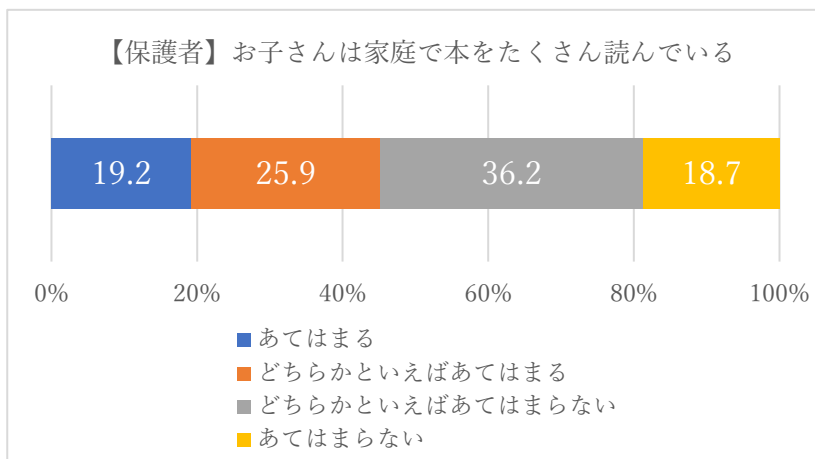
〈関連するアンケート結果〉



- ・「読書が好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童は全体の約8割を占めています。
- ・また、好きな理由として「楽しい・おもしろい」と答える児童は、学年が上がるにつれて増えています。
- ・図書委員会などの活動、読み聞かせボランティアの皆様の活動等を通して、読書の楽しさや良さが児童に広がっていると考えられます。



- ・51冊以上借りている児童の割合は全校の22%（昨年度24%）という結果になり、若干減少しています。
- ・学年では、1～4年生にかけての51冊以上の割合が増えており、昨年度は1～3年生だったことに比べて学年の広がりが見られます。
- ・高学年になると冊数は減っています。長編の読み物を読んだり、忙しくなったりするためと考えられます。



- ・家庭での過ごし方は様々だと思います。習い事の有無やメディアの利用状況、体を動かして活動することの好き嫌いなどで、読書に割り当てる時間に差が出てくるものと思われます。読書に費やす時間だけではなく、読書の質にも目を向けていきたいと思います。
- ・また、家庭で読み聞かせ等を行い、本を介してコミュニケーションを図っている記述が多くあり、実践が広がっていることも感じました。

3 「学校教育目標」実現のための保護者、教職員の取組について

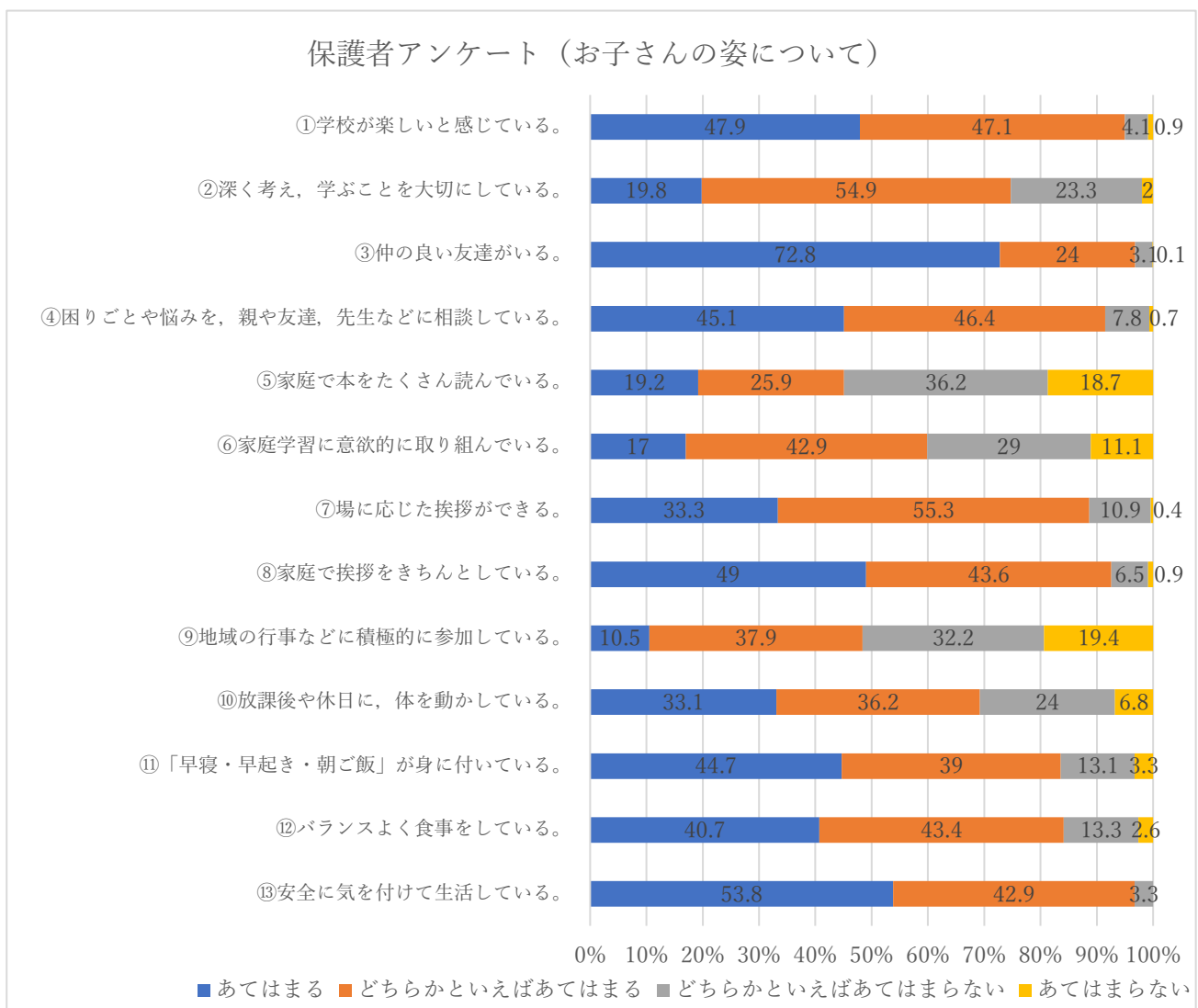
学校教育目標 たくましく・しなやかに生きる 子ども

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策により、例年のような教育活動を実施できませんでしたが、錦体力フェスタや錦学びフェスタ、情報端末を利用した友達との意見交換やコミュニケーション力の育成に力を入れてきました。コロナ禍で行えることを創意工夫しようと試みてきましたが、保護者アンケートの9割以上の方に、お子さんが学校に行くことを「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と感じていると回答していただけたことがうれしいです。

読書については、協働型学校評価の重点目標として取り組んでいますが、目に見えた大きな改善ができているとは言えない状況です。数値目標を示して努力や成果が視覚的に分かるようにすることだけではなく、いじめに向かわない心の育成という観点からも、読書を介した温かいコミュニケーションを大切に考えていきたいと思えます。

今後も、保護者の皆様、地域の皆様方と協力しながら、児童が読書を通して温かいコミュニケーションを築けるよう指導してまいりたいと考えています。

〈関連するアンケート結果〉



4 学校の自己評価結果を踏まえた学校評議員・学校関係者評価委員の御意見

学校の自己評価に対して、2月15日(火)に行われた学校評議員会・学校関係者評価委員会において、委員の皆様から御意見をいただきました。以下に、主なものを御紹介いたします。

① 読書について

- ・高学年の読書時間の減少について、習い事等の忙しさもあるのではないかと。登校時間にも習い事の荷物が多い。本を読む時間があまりないのではないかと。
- ・スマホやゲーム、ユーチューブ等の楽しいことがあり選び放題になっている。
- ・自分の家では、寝る前に読書をしているが、その子の意識もある。親子で対話していることが大切。
- ・児童館では、図鑑系で対話がある。読書をしていても、すぐに習い事の時間になっている。
- ・読書については、活字からイメージを広げる楽しさがあり、大切にしたい。
- ・クロームブックも使っているが、授業での紙のテストや読書も紙である。デジタルのよさを生かして欲しい。本の機能性を考えていくことも大切。今は、ネットでも読める。

② 子供たちの学び方について

- ・習い事や塾では、決まっている内容をやると思うが、与えられた学習や宿題をやるというのではなく、自律的に学ぶ児童を育てたいと考えている。
- ・子供たちは忙しく、楽しい活動も時間が足りず、ここで終わりとなることがある。十分な時間をかけて取り組むということは大切。
- ・興味を持ったことにじっくり取り組み、自分づくりをしてほしい。
- ・オンライン対応は、学校判断でやっていく。本校は、普段から学校でやっていることを使っているから、休校となればやろうと思っている。
- ・コロナ禍でも、子供たちが落ち着いて授業しており、安心した。
- ・小学校で子供たちが落ち着いて授業に取り組んでいることが分かった。小学校で手をかけてもらっているから、中学校でも落ち着いて過ごせる。
- ・工作などもたくさん飾ってあった。これも、クロームブックで共有できるといいのではないかと。試行錯誤で磨かれるものがある。ギャラリースペースにデジタル作品などもあってもいい。

③ その他

- ・新型コロナウイルス感染症対策について、濃厚接触者にならないように気をつけて授業を行っている。感染者が出たときにメールでお知らせしているが、抗原検査で陽性となっても、PCR検査で確認し保健所から確定の連絡が入るまでに、時間がかかる。学校は確実な情報の提供に努めており、御理解いただきたい。
- ・安全について、目に見えない危険な世界もある。情報セキュリティも安全教育に含めて考えていくとよい。
- ・「めですこ school」は、地域と学校をぼうと活動している。人材の発掘にも力を入れている。

5 令和4年度 錦ヶ丘小学校 教育活動改善（案）について

委員の皆様から御意見をいただきましたこと等も踏まえ、「令和4年度に向けての教育活動改善（案）」をお示しします。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症対策に最大限配慮しながら教育活動を進めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

〈 改善の目的 〉

- 新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、学校教育活動を柔軟に実施するため。
- 教員が子供と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図るため。
- 新学習指導要領で定められた教科等の内容等を確実に指導できるようにするため。

〈 改善の具体について 〉

○ 錦ヶ丘小中学校コミュニティ・スクール*¹のスタート

- ・ 3月2日（水）に第1回の学校運営協議会を開催し、13名の運営協議会委員へ教育委員会からの委嘱状を交付しました。これまで以上に、地域との連携を深めながら、「自分づくり教育の充実」「防災教育の充実」「情報教育の充実」の3本の柱で教育活動の充実を図っていきます。

○ GIGAスクール*²環境の効果的な活用について

- ・ 仙台市のGIGAスクール推進校として、令和3年度を取組をさらに充実させながら、GIGAスクールにより配備された個人アカウントや情報端末（Chrome book）を積極的に活用していきます。
- ・ 学校での学習と家庭での学習を関連付けながら、学習内容を深めたり、学習習慣を身に付けさせたりするなど、自律的な学習態度を形成していくことができるように指導の工夫をしていきます。
- ・ 情報端末（Chrome book）を家庭に持ち帰りますので、適切な利用、健康面での配慮等について御家庭においても見守りや声掛けをお願いします。
- ・ 情報端末（Chrome book）の積極的な活用に向け、デジタルドリル*³の導入を検討しています。導入するドリルのタイプにより、御家庭での費用負担をお願いすることもあります。御理解と御協力をお願いします。

○ 「体力フェスタ」「学びフェスタ」の充実について

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、令和4年度も従来型の「運動会」「学習発表会」について、全学年が一堂に会して行うことは難しいと考えています。令和3年度同様、「体力フェスタ」「学びフェスタ」として、学年や学級を単位として平日の授業日に行うことにします。
- ・ 「運動会」については、学年としての集団行動の体得や運動に親しむことをねらいとして、体育科の学習と関連させながら、5月頃に「体力フェスタ」を実施する予定です。6年生については、仙台市の陸上記録会（9月実施予定）に向けた練習の様子を公開できるよう計画し、5月には実施しないこととします。
- ・ 「学びフェスタ」については、令和3年度の実施内容についてしっかりと振り返り、課題点を改善できるよう工夫して実施します。教科等での学習成果を発表し、互いの努力を認め合ったり、自他の良さを見付け合ったりする機会として、11月～12月初旬頃に期間中、学年ごとに発表の日時を設定します。具体の開催日時については、新年度に入ってからお知らせします。

なお、「学びフェスタ」と関連させながら、学年・学級等の代表者が参加する「プレゼンテーション大会」を授業日以外の土曜日等に開催できないか検討を進めています。

○ 学校行事（修学旅行・野外活動）の現段階の見通し

- ・修学旅行については、旅行業者、受け入れ先予定の会津若松市、宿泊ホテル等の協力のもと、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで、6月実施に向けて準備を進めています。尚、今後の状況により、変更もあり得ることを御承知おきください。
- ・野外活動については、今年度も「オーエンス泉岳自然ふれあい館」において9月（1泊2日）に実施の予定ですが、今後の状況により、変更もあり得ることを御承知おきください。

○ 学校からの情報配信や情報交換の機会の充実を図ります

- ・新型コロナウイルス感染症の状況次第ではありますが、4月に授業参観日を設け、お子さんの様子を見ていただくと共に、学級懇談会の開催を工夫して行いたいと考えています。
- ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、令和4年度もPTA総会を体育館に一堂に会する形で行うことは難しいと考えており、上記懇談会の際にビデオによる挨拶や説明を行うほか、ウェブページやフォーム等を活用しながら、「承認」をいただく方向で考えています。
- ・対面での情報発信や情報交換が難しい現状を踏まえ、仙台市教育委員会により整備されたGIGAスクールの環境も積極的に活用しながら、学校からのお知らせの頻度を上げたり、フォームによる意思確認の機会を増やしたりしていきたいと考えています。なお、これまで紙で配付していたおたよりをスカイメニューの連絡機能等を用いて電子的な配信に切り替えていくことを検討しています。
- ・全家庭を対象とした個別面談は夏休み期間中に実施しますが、面談については、これまで通り、いつでも対応しますし、面談を積極的に受け入れる期間を設けることも検討しています。心配なことがある場合や直接学校の考えを尋ねてみたいという場合には、いつでも御連絡ください。

○ 教員の働き方改革について

- ・教員の働き方改革が喫緊の課題となっており、学校評議員・学校関係者評価委員会においても改善を図るべきとのご意見を頂いております。どの職場でも同様だと思いますが、新型コロナウイルス感染症の対応等もあり、様々な負荷が増大しています。本校教員の勤務時間は、8：25～16：55であることを御理解頂き、引き続き18：00～7：30迄の電話メッセージ対応に御理解と御協力を頂くと共に、昇降口を開ける時刻をこれまでの7：40から7：50と改めることについても御理解と御協力をお願いします。

○ 家庭での学習について

- ・「学校から〈宿題〉を出してほしい」との声がありますが、この点については、学校評議員・学校関係者評価委員会においても何度も話題になっており、子供たちにとって大切なのは、一律に一定量課された課題をこなすことよりも、自律的に学ぶ力なのではないかという考えに至っています。
- ・中学校に入れば、否応なく、自分自身で計画的に予習復習することが求められます。
- ・また、様々な御家庭がある中、一律に一定量の宿題を課すことも難しいと思っています。
- ・もちろん、小学校低学年から自律的に学ぶことができると考えているわけではありませんし、子供に任せきりで自律的に学ぶ力が身に付くと考えているわけではありません。

- ・学校としては、授業での学びを充実させることを第一に考え、そのために、家庭でも予習的に取り組むことが必要なもの、復習して定着を図ってほしいことについては、内容や方法を明確にしながら、〈課題〉として取り組むことを促していきます。
- ・何よりも、日々の授業が、「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」という子供たちの気持ちを引き出せるものとなるよう工夫を重ねていくことに力を尽くしていきたいと思えます。
- ・また、段階的に自律的な学びへと向かうことができるように、学び方や学習計画の立て方についての指導を丁寧に行い、御家庭とも共有できるように努めます。
- ・下学年の子供たちに、突然自分で考えなさいというようなことはせず、教師から課題を与えたり、例示をしたり、内容を自分で選択したりして取り組むことができるよう工夫して指導します。
- ・子供たちが頑張って取り組んだ内容については、適宜励ましの言葉等を添えるなど、取組が持続するような工夫についても考えていきます。

*1「学校運営協議会」が設置され、学校支援地域本部と連携・協働しながら、学校と一緒に地域全体で子供たちの教育にかかわっていくという考え方や、その仕組みができていく学校のこと。



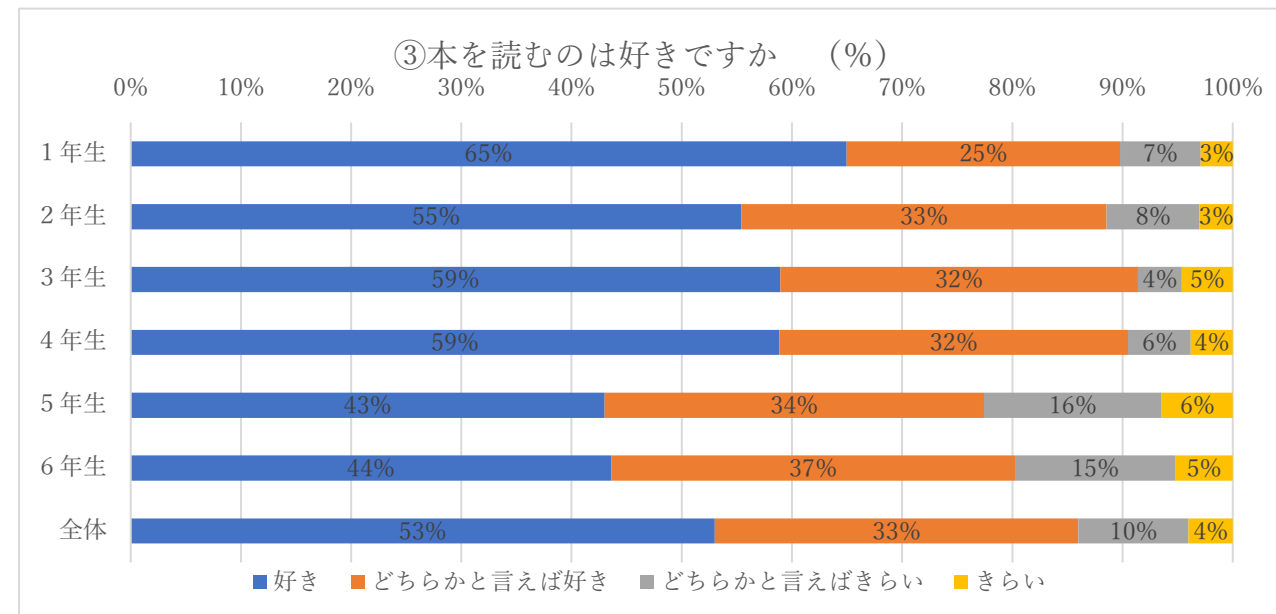
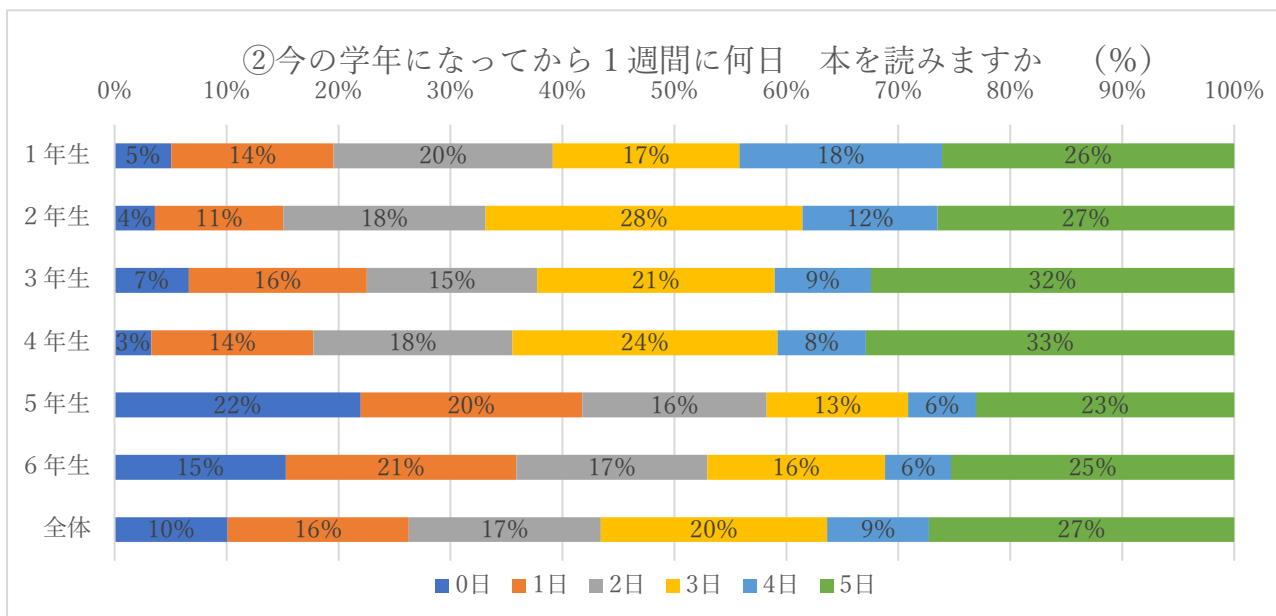
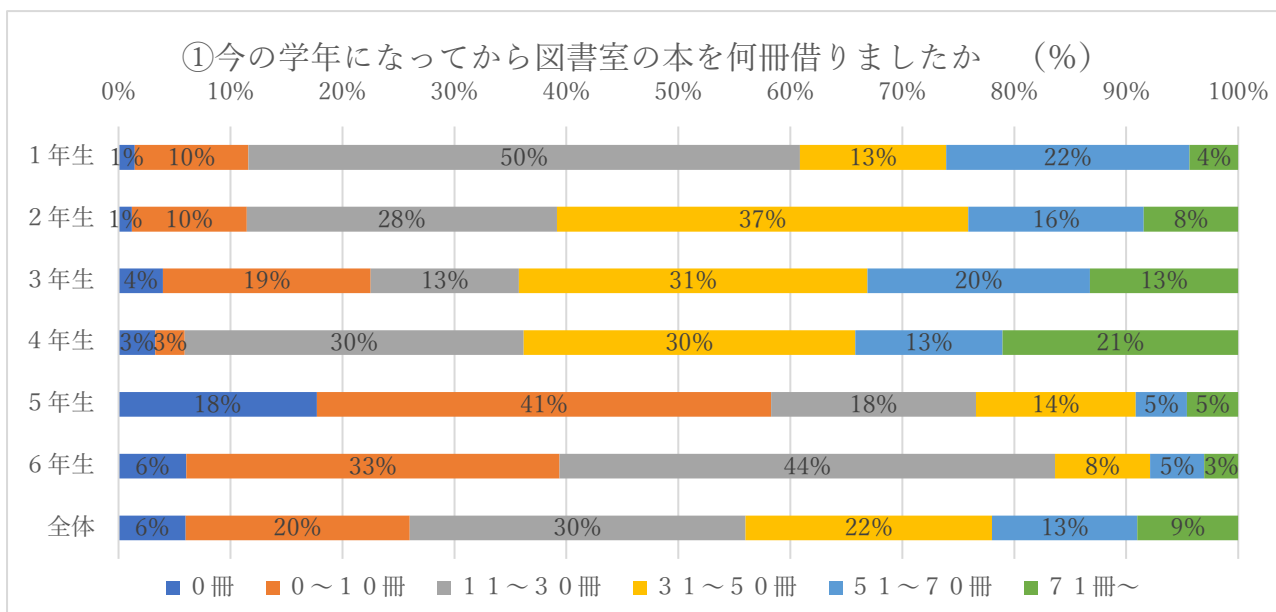
(仙台市 web ページ参照 https://www.city.sendai.jp/manabi/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/kanren/community_school.html)

*2「GIGA」とは、「Global and Innovation Gateway for All」の略。「世界とつながる革新的な学びを全ての子供たちに」の意。

*3 令和3年度に活用したデジタルドリル「キュビナ」は、無償トライアルという形で利用していました。デジタルドリルの利用を行う場合は、新たに購入する必要があり、デジタルドリルの機能や期待できる効果、価格などについて、キュビナ以外の複数の製品の購入について検討しているところです。

<参考資料>

○ 児童自己評価アンケート



○保護者の皆様から（読書を介した「対話」の推進について、工夫した働き掛け等）

【読書に関すること】

- ・寝る前に本の読み聞かせをして、感想を話している。一緒に読むと、話の展開に「え？」と反応したり、「いい話だねえ」とその場で感想を言い合ったりして楽しんでいる。
- ・季節に合わせた絵本等を本棚の見やすい場所に置き、時々子どもと一緒に読むようにしている。
- ・家族全員での読書時間を設定し、同じ本を読んで、共感したりお互いの感想を話したり、好きなページを見たり、まだ読んでない本のあらすじを子どもに説明してもらったりした。
- ・小学校の家読の声掛けが、家庭内での読書の習慣を考えるきっかけになった。子どもがどんな本に興味を持ち、どんな感想を聞かせてくれるのか、今後も意識して過ごしていきたい。
- ・子どもの読んでいる本に興味を持って内容を教えてもらうことで会話が増えた。興味があれば難しい本でも集中して読んでいて感心する。家族で読書することは今後も続けたい。
- ・図鑑など、興味のある本と一緒に、またはお小遣いで購入したりしている
- ・ジャンル問わず様々な本を読ませている。
- ・児童館で読書をしている。
- ・家庭でもみんなで広瀬図書館に行くようにしている。
- ・こどもが集中できる時間という20分を、まずは集中してやるように言っている。
- ・メディアの時間が多くなっているのが気になり、図書館から新鮮な本を借りて来ては、テレビを消して読むように進めたりしている。
- ・子どもの好きそうな本を図書館で数冊かりて薦めている。シリーズものなどを薦めたら夢中で読むようになり、読書の時間が増えた。
- ・同じテーマに関する本をそれぞれが読んでみたり、本の読み聞かせを姉が弟にしたりと本は家族の中でも良いコミュニケーションツールになっている。また、知らない言葉や文化、考え方について書かれている本については、言葉を辞書で調べるなどして深く一つのことを知る機会になっており、本人もそういった経験を楽しんでいるようだ。お友達とも本について話すこともあるようで、学校から帰ってきてそういった話を聞くのも楽しみだ。
- ・読書といってもマンガ本だが、内容の場面当てジェスチャーゲームに発展して遊んだ。
- ・子ども新聞を取るようになった。興味のある所は積極的に読んで、知識や教養を養うようにしている。
- ・学校の図書館土曜開放に行った。
- ・音読の自主学习で、親子で句読点毎に交互に読むなどして、宿題を通して対話の時間を作っている。
- ・絵本や漫画は読むが、本はなかなか読もうとしない。特にChrome bookを持ち帰るようになってから、読書時間が減った。Chrome bookの時間を制限したり、やり過ぎたり隠れて使っていたりするのが増え、温かいコミュニケーションとは相反した状態になっている。どのようにすれば良いのか、良い案があれば教えていただきたい。

【コミュニケーションに関すること】

- ・寝かしつけをしており、意識しているわけではないが、眠るまでその日の出来事等話す時間がある。
- ・なるべく子供と過ごす時間をとるようにしている。一緒に入浴、一緒に就寝をするなどあえて1対1で『一緒』に過ごす時間を作る事で、甘えられる環境やほっとできる時間を作っている。特に、お風呂の時間や寝る前に落ち着いて学校の事など話してくれるので、その時間を多くとるようにしている。
- ・毎日たくさん話すようにしている。質問ばかりするのではなく、自分たちの仕事や一日の出来事を話

しています。すると自然に、「小学校ではね,,,」と話してくれる。

- ・食事は皆で摂り、食事中はテレビを消して会話を楽しみ、団らんを大切にしている。
- ・毎日、「今日の楽しかった話」として、家族みんなで話す時間を設けています。
- ・意識した会話ではなく、自然に出てきた言葉にちゃんと反応し話を広げられるようにしている。
- ・子どもの話にはきちんと耳を傾けるようにしている。本人が話をしたい時は手を止め目を見て向き合って話を聞いた。
- ・毎日、生活のことやゲーム、YouTube などでも、話題を出して親子、兄弟で話した。興味のある話題を出すことで、自然とその後日々の様子や兄弟の出来事を話したりした。
- ・学校から帰宅したら、その日どんなことがあったか、楽しかった・おもしろかったことなど、聞くように(少しでも会話をするように)している。
- ・家族で出掛けたり、いっぱいハグしたり、常に「愛してる」「大切な宝物」である事を伝えている。
- ・身近な大人も悪い時はきちんと謝る
- ・相手に伝わらない話し方は、誰が何を、どうしたのか、考えて話しをするように、注意している。
- ・自分がされてうれしいと思う声掛けをするようにと伝えている
- ・お手伝いを積極的にさせ、その中でコミュニケーションを図るようにしている。
- ・休日は家族以外の人とも接するように、働き掛けた。
- ・時間があれば話を聞き、親の考えも伝え、一緒に考えるようにしている。
- ・家族やお友達に対しての言動に思いやりが足りないと感じた時は、出来るだけ本人の思いや意見を尊重しながら、「自分ならどう感じるか」一緒に考える時間を持つようにしている。
- ・いつもと様子が違う時はさり気なく話が出来る様に接している。なるべく親の考えを押し付けないようにし、共感することを心がけている。
- ・対話が生まれる季節ならではの遊びや経験を家族みんなですることを大切にしてきた。(自然の中でのキャンプ、散歩、お楽しみのクッキング)
- ・人前で思いを話し受け止めてもらう経験を多くさせた。
- ・祖父母とテレビ電話をし、学校であった出来事を話したり縄跳びをしてみせたりと親以外の人と接する機会を作った。
- ・同じ風景でも、相手の人には自分とはちがう景色に見えることもあるということを伝えている。
- ・子供が自分自身で選んだ物について、最初から否定しないようにしている。最初から否定してしまうと、子供側が、対話しようという気持ちを無くしてしまうと感じたため。

【挨拶や言葉遣いに関すること】

- ・あいさつの大切さを教えている。もっと自分からすすんで挨拶できるようになって欲しいと思う。
- ・自分の子どもを含めて、対話以前に人に会ったらまずこんにちはの基本的な挨拶ができない子どもがとても多い。挨拶は温かいコミュニケーションの礎、相手の存在を認める足掛かりになり重要な行為だと思う。せめて校内では先生、生徒はもちろんのこと、外部の人にも元気に挨拶するよう自分の子どもには声を掛けている。
- ・親が率先して、だれに対しても丁寧に謙虚な言葉遣いをしたり、常に親の姿を見せる事を意識し生活している。また、異学年の子供達や沢山の大人達とコミュニケーションを取る機会を作っている。
- ・「ありがとう」と「ごめんなさい」はきちんと声に出して相手に伝えるように話している。